

問1 物価が継続的に下落するデフレーションが発生し、景気が後退している状況において、日本銀行が行う「公開市場操作（買いオペレーション）」の仕組みと目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 茨城県公立入試 類似）

1. 日本銀行が市中銀行から有価証券を買い入れ、市場の通貨量を増やすことで、経済活動の活性化を図る。
2. 日本銀行が市中銀行へ有価証券を売却し、市場の通貨量を減らすことで、物価の過度な上昇を抑える。
3. 日本銀行が市中銀行から有価証券を買い入れ、市場の通貨量を減らすことで、企業の過剰な設備投資を抑制する。
4. 日本銀行が市中銀行へ有価証券を売却し、市場の通貨量を増やすことで、消費者の購買意欲を高め、物価を安定させる。

問2 日本銀行は、私たちの生活に関わる一般の銀行とは異なる特別な役割を担っています。日本銀行が、一般の銀行に対して資金の貸し出しや預金の受け入れを行う役割を何と呼びますか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 発券銀行
2. 政府の銀行
3. 銀行の銀行
4. 市中銀行

問3 日本銀行が「銀行の銀行」としての役割を果たす際、景気を調整するために行う操作（金融政策）についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. 景気が悪いときには、民間の銀行への貸し出し利率を下げることで、世の中に出回るお金の量を増やす。
2. 景気が悪いときには、政府から集めた税金を公共事業に使い、国民の所得を直接増やす。
3. 景気が良すぎるときには、紙幣の発行を完全に停止することで、物価の上昇を抑える。
4. 景気が良すぎるときには、民間の銀行に預けられている個人の貯金を強制的に国債へ振り替える。

問4 不況（景気後退）の際、日本銀行が景気回復を図るために行う金融政策として、日本銀行が一般の銀行に対してとる行動と、それによって生じる市場の変化の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）

1. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を増やす。
2. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する資金量を増やす。
3. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を減らす。
4. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する資金量を減らす。

問5 2024年度から導入された新一万円札の肖像には、かつて「日本資本主義の父」と呼ばれ、日本最初の国立銀行を設立した人物が採用されました。この人物は誰ですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 福沢諭吉
2. 渋沢栄一
3. 岩崎弥太郎
4. 津田梅子

問6 家計、金融機関、企業の三者間における資金の流れを説明した以下の文のうち、間接金融の仕組みを正しく述べているものはどれですか。（2026年 富山公立入試 類似）

1. 家計が企業の株式や社債を直接購入し、企業がその資金を事業に活用する仕組み。
2. 政府が家計から税金を徴収し、公共事業などを通じて企業に資金を供給する仕組み。
3. 家計が金融機関に預けた資金を、金融機関が仲介役となって企業へ貸し出す仕組み。
4. 日本銀行が市中銀行との間で国債を売買し、世の中に出回る通貨の量を調整する仕組み。

問7 資金の借り手である企業が、貸し手である家計や他の企業から資金を得る「直接金融」の仕組みについて、その具体的な説明として正しいものはどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 企業が株式や債券を発行し、それを家計などが購入することで、間に金融機関を挟まずに資金が流れる仕組み。
2. 銀行が家計から預金として集めた資金を、銀行の判断と責任によって企業に貸し出す仕組み。
3. 中央銀行が民間銀行の保有する有価証券を売買することで、世の中に出回る通貨の量を調整する仕組み。
4. 政府が発行する公債を日本銀行が直接引き受けることで、国の財政資金をまかなう仕組み。

問8 日本銀行が「政府の銀行」として活動する一番の理由はどれですか。（2018年 兵庫公立入試 類似）

1. 国のお金を安全に管理し、支払いをスムーズにおこなうため
2. 日本銀行が利益をたくさん増やして、国をゆたかにするため
3. 一般の銀行よりも、もっと高い利率でお金を貸すため
4. 全国の人たちから直接税金を集めて、集計するため

問9 外国為替市場において、1ドル=100円だった為替レートが1ドル=140円になるような、他国の通貨に対して日本円の価値が相対的に下がる現象を何と呼びますか。また、その際、海外から輸入される牛肉などの輸入価格はどう変化しますか。正しい組み合わせを選びなさい。（2026年 鳥取公立入試 類似）

1. 円安となり、輸入価格が上昇する
2. 円安となり、輸入価格が下落する
3. 円高となり、輸入価格が上昇する
4. 円高となり、輸入価格が下落する

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本銀行が市中銀行から有価証券を買い入れ、市場の通貨量を増やすことで、経済活動の活性化を図る。	デフレーション（デフレ）は、物価が下落し続けることで企業の利益が減り、不況を招く現象です。この際、日本銀行は景気を刺激するために、市中銀行から国債などの有価証券を買い入れる「買いオペレーション」を行います。日銀が代金を支払うことで世の中に出回る通貨量が増え、金利が低下します。これにより、企業や個人がお金を借りやすくなり、投資や消費が促進されて景気回復へとつながることが期待されます。
問2	答え 3 銀行の銀行	日本銀行は一般の企業や個人とは直接取引を行わず、銀行などの金融機関を相手に資金を融通します。この役割を「銀行の銀行」と呼び、金融システムの安定を維持しています。一方、紙幣を発行する役割は「発券銀行」、国庫金の管理などを行う役割は「政府の銀行」と呼ばれます。
問3	答え 1 景気が悪いときには、民間の銀行への貸し出し利率を下げること、世の中に出回るお金の量を増やす。	「銀行の銀行」としての役割は、景気のコントロールにも活用されます。不況の際には、日本銀行が民間の銀行へ貸し出す際の条件を緩和したり、利率を下げたりすることで、民間の銀行が企業や個人へお金を貸し出しやすくし、経済活動を活発にしようとしています。これを金融緩和といえます。
問4	答え 1 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を増やす。	不況のときには、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活性化させる必要があります。日本銀行が一般の銀行が持っている国債を買い上げることで、その代金が銀行に支払われ、結果として市場に流通する資金量が増加します。これにより、企業や個人が銀行からお金を借りやすくなり、景気を向上させる効果が期待されます。これを買いオペレーションと呼びます。
問5	答え 2 渋沢栄一	渋沢栄一は明治時代に第一国立銀行（現在の銀行の先駆け）を設立したほか、500以上の企業の創立に関わり、日本の近代経済の基礎を築きました。経済活動だけでなく、社会福祉事業にも深く関わった功績から、新紙幣の肖像として選ばれました。なお、当時の「国立銀行」は、現在の「日本銀行（中央銀行）」とは異なり、民間資本による銀行でした。
問6	答え 3 家計が金融機関に預けた資金を、金融機関が仲介役となって企業へ貸し出す仕組み。	間接金融では、家計から預金として集められた資金が、金融機関というフィルターを通して企業へと流れます。これに対し、家計が直接株式などを買う仕組みは直接金融と呼ばれます。金融機関が間に入ることで、個々の家計は直接的な投資リスクを避けることができます。
問7	答え 1 企業が株式や債券を発行し、それを家計などが購入することで、間に金融機関を挟まずに資金が流れる仕組み。	直接金融は、企業が発行する株式や債券（社債）を投資家が直接買い取ることで成立します。銀行を仲介役とする間接金融とは異なり、投資家が企業に対して直接リスクを負うこととなります。この仕組みにより、企業は長期的な資金を安定して確保することが可能になります。
問8	答え 1 国のお金を安全に管理し、支払いをスムーズにおこなうため	国が使う膨大なお金を個人の銀行で管理するのは大変でリスクもあります。日本銀行が政府の資金を管理することで、公共事業などの支払いを正確かつ確実におこない、国全体の経済活動が滞りなく進むように支えています。
問9	答え 1 円安となり、輸入価格が上昇する	1ドルを交換するために必要な日本円が100円から140円に増えることは、ドルに対して円の価値が下がったことを意味するため「円安」と呼びます。この状況では、海外から1ドルの商品を買い付ける際により多くの円を支払わなければならないため、輸入価格は上昇し、家計や企業のコスト負担が増加する要因となります。